

ニマ・ツェリン研究員（ブータン）



私はブータンから来ましたニマ・ツェリンと申します。ダガナ県の防災担当官として勤務しています。ブータン内務文化省地方政府部の下、2005年5月にサムツェ県の委員会事務局長としてキャリアをスタートしました。2013年に Royal Institute of Management で公共経営修士を取得しました。

私の母国であるブータンは、ヒマラヤ地域にある内陸国で、人口密度の高い国々、北は中国、南はインドに囲まれています。国内に 20 の県があり、205 の地区があり、そのほとんどは、森林に囲まれ、自然が豊かで多種多様な文化遺産があります。

ブータンは、世界でも夫も地震活動が活発な地域に位置しています。過去の記録では、これまでに7-8回の地震が発生し、多くの農村家屋や学校、政府関連の建物が甚大な被害を受けました。地震の他に、モンスーン時期（6月～8月）における氷河湖決壊洪水（GLOF）、地すべり、鉄砲水や、暴風、火事、森林火災、雹害といった災害が農作物に影響を与えています。この国における防災は、まだ進化を遂げている最中で、人材育成のための予算的制約や人材不足、様々な組織との連携、技術不足などが課題となっています。

ADRC 客員研究員プログラムは、世界や特に日本における防災の優良事例について学んだり、経験したりする良い機会を与えてくれています。日本に滞在する3ヶ月間、日本の防災及び防災システムについての多くのプログラムについて学ぶことにより、自国の県や地方レベルにおける防災非常事態計画の発展に貢献できると思います。このような機会を与えてくれた ADRC、そして日本政府とブータン政府や、客員研究員プログラムへの参加を支援してくれた県知事である Phintsho Choeden 氏に感謝いたします。